

令和4年度（2022年度） 環境管理実施計画兼報告書 【課名：計画課】

推進責任者(課長)	作成者(推進員)
福澤	横山
令和5年5月12日	令和5年5月10日

環境目的	省エネ法に基づくエネルギー使用量の低減															
環境目標	中長期計画書に基づく目標の推進（平成30年度（2018年度）を基準とし、年平均1%のエネルギー原単位の改善）（省エネ法における目標：5年度間平均値で1%のエネルギー原単位削減）															
目標達成の手段 (具体的にどんなことを進めるか)	成果の記録等	担当者	区分	スケジュール(令和4年度(2022年度))												備考 (合計)
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
各施設毎に設定した原単位に基づき消費原単位の削減に取り組む	組合全体のエネルギー消費原単位前年度比(%) 省エネ法における目標：5年度間平均値で1%のエネルギー原単位削減	計画財政担当	計画	99.0			99.0			99.0			99.0			99.0
			実績	126.6			127.9			136.0			113.6			122.8
	増減		27.6			28.9			37.0			14.6			23.8	
	計画		513.3			454.6			497.1			537.4			2,002.4	
	実績		514.0			527.6			589.0			562.9			2,193.2	
	増減		0.7			73.0			91.9			25.5			190.8	
<p>&lt;進捗チェック&gt; 推進員が四半期末に記入⇒推進責任者(課長)に提出</p>	推進員：進捗状況確認日(日付) ⇒		令和4年8月16日			令和4年11月15日			令和5年2月9日			令和5年5月10日			令和5年5月10日	
	進捗状況マーク記入欄 ⇒		×			×			×			×			×	
	目標に対する結果 (パフォーマンス) 進捗状況・実施事項等		第二工場におけるコークスの使用量が前年度同期より減少したため、前年度よりもエネルギー使用量は減少したが、前年度比99.0%として設定している計画値については、0.7kl上回った。第二工場におけるエネルギー使用量は減少したが、生産数量及び販売副生成エネルギーについては、前年度同期より減少しているため、エネルギー消費原単位は前年度同期を上回った。	第二工場で突発的なトラブル等で炉の停止が続き、補修工事のため、炉の稼働と停止を繰り返したことで、火入れ回数が増え、灯油及びコークスの使用量が前年度同期よりも増加した。前年度比99.0%として設定している計画値については、73.0kl上回り、エネルギー消費原単位についても前年度同期を上回った。	第二工場で補修工事のため、炉の稼働と停止を繰り返したことで、火入れ回数が増え、灯油及びコークスの使用量が前年度同期よりも増加した。また、ごみ発熱量の減少に伴い、燃焼室の温度を確保するため、灯油使用量が前年度同期よりも増加した。前年度比99.0%として設定している計画値については、91.9kl上回り、エネルギー消費原単位についても前年度同期を上回った。	第二工場でごみ発熱量の減少に伴い、燃焼室の温度を確保するため、灯油使用量が前年度同期よりも増加した。また、点検により前年度に比べて炉の稼働日数が減少したため、前年度よりも買電が増加した。前年度比99.0%として設定している計画値については、25.5kl上回り、エネルギー消費原単位についても前年度同期を上回った。	第二工場で補修工事のため、炉の稼働と停止を繰り返したことで、火入れ回数が増え、灯油及びコークスの使用量が前年度同期よりも増加した。また、ごみ発熱量の減少に伴い、燃焼室の温度を確保するため、灯油使用量が前年度同期よりも増加した。前年度比99.0%として設定している計画値については、190.8kl上回り、エネルギー消費原単位についても前年度同期を上回った。									
	推進責任者(課長)：決裁日⇒		令和4年8月18日			令和4年11月21日			令和5年2月10日			令和5年5月12日			令和5年5月12日	

進捗状況欄記入マーク

◎(100%):うまくいっている ○(100%未満~95%):概ねうまくいっている △(95%未満~90%):ほぼうまくいっている ×(90%未満):うまくいっていない  
 なお、数値目標の設定が困難な場合は、定性的な表現を用いることができる。  
 \*その他実績状況について、進捗状況・実施事項等の欄に記入

令和4年度（2022年度） 環境管理実施計画兼報告書 【課名：計画課】

推進責任者（課長）	作成者（推進員）
福澤	横山
令和5年5月12日	令和5年5月10日

環境目的		温暖化防止のため温室効果ガス排出量を削減する															
環境目標		東埼玉資源環境組合地球温暖化対策実行計画に基づき、令和4年度(2022年度)の二酸化炭素排出量を98,146t以下にする（基準年度排出量115,196tの▲14.8%とする）															
目標達成の手段 (具体的にどんなことを進めるか)	成果の記録等	担当者	区分	スケジュール（令和4年度(2022年度)）												備考 (合計)	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
非エネルギー起源：89,639t以下 エネルギー起源：8,507t以下 【算出方法】 非エネルギー起源：年間焼却量×廃プラ割合×(100%-水分量)×排出係数 エネルギー起源：各燃料使用量×排出係数	四半期毎の非エネルギー起源、エネルギー起源に基づく二酸化炭素の量を算出 (四半期の計画内訳は令和3年度(2021年度)温室効果ガス排出量を基に按分した)	計画財政担当	計画	28,157			25,167			23,365			21,456			98,146	
			実績	25,420			26,419			22,184			23,444			96,614	
			増減	▲ 2,737 90.3%			1,252 105.0%			▲ 1,181 94.9%			1,988 109.3%			▲ 1,532 98.4%	
＜進捗チェック＞ 推進員が四半期末に記入⇒推進責任者(課長)に提出	推進員：進捗状況確認日(日付) ⇒		令和4年8月16日			令和4年11月15日			令和5年2月9日			令和5年5月10日			令和5年5月10日		
	進捗状況マーク記入欄 ⇒		◎			○			◎			△			◎		
	目標に対する結果 (パフォーマンス) 進捗状況・実施事項等		第一四半期(4-6月)の状況 計画:28,157t、実績:25,420t (4-6計画比90.3%、年間計画比25.9%) 【主要要因】 焼却量の減少 前年比 -4,823.39t(第一-2,746.79t、第二-2,076.60t) 廃プラ割合の減少 実績21.3%(第一-21.1%、第二21.4%) 昨年度22.6%(第一-24.4%、第二20.8%)			第二四半期(7-9月)の状況 計画:25,167t、実績:26,419t (7-9計画比105.0%、年間計画比26.9%) 【主要要因】 ※前年度同期の実績値よりも微増 【主要要因】 焼却量の減少 前年比 -1,065.54t(第一-494.35t、第二-571.19t) 廃プラ割合の減少 実績21.7%(第一-26.1%、第二17.2%) 昨年度22.5%(第一-27.4%、第二17.5%) 固形分割合の増加 実績59.7%(第一-59.8%、第二59.6%) 昨年度57.8%(第一-56.8%、第二58.7%)			第三四半期(9-12月)の状況 計画:23,365t、実績:22,184t (9-12計画比94.9%、年間計画比26.6%) 【主要要因】 焼却量の減少 前年比 -1,003.44t(第一-1,259.42t、第二+255.98t) 廃プラ割合の増加 実績19.9%(第一-22.2%、第二17.5%) 昨年度19.2%(第一-20.4%、第二17.9%) 固形分割合の減少 実績57.0%(第一-51.8%、第二62.1%) 昨年度63.5%(第一-66.5%、第二60.5%)			第四四半期(1-3月)の状況 計画:21,456t、実績:23,444t (1-3計画比109.3%、年間計画比23.9%) 【主要要因】 焼却量の増加 前年比 +1,891.32t(第一+2,070.94t、第二-179.62t) 廃プラ割合の増加 実績23.4%(第一-24.3%、第二22.5%) 昨年度22.7%(第一-25.8%、第二19.5%) 固形分割合の増加 実績64.6%(第一-58.5%、第二70.6%) 昨年度61.3%(第一-59.0%、第二63.6%)			令和4年度(2022年度)の状況 計画:98,146t、実績:96,614t (計画比98.4%) 昨年度実績:102,889t(昨年度比:93.9%) 【主要要因】 焼却量の減少 前年比-5,001.05t (第一-2,429.62t、第二-2,571.43t) 廃プラ割合の減少 実績21.5%(第一-23.4%、第二19.6%) 昨年度21.7%(第一-24.5%、第二18.9%) 固形分割合の減少 実績60.4%(第一-56.6%、第二64.1%) 昨年度61.2%(第一-60.1%、第二62.3%)		
			推進責任者(課長)：決裁日⇒		令和4年8月18日			令和4年11月21日			令和5年2月10日			令和5年5月12日			令和5年5月12日

進捗状況欄記入マーク

◎(100%):うまくいっている ○(100%未満~95%):概ねうまくいっている △(95%未満~90%):ほぼうまくいっている ×(90%未満):うまくいっていない  
 なお、数値目標の設定が困難な場合は、定性的な表現を用いることができる。  
 \*その他実績状況について、進捗状況・実施事項等の欄に記入

令和4年度（2022年度） 環境管理実施計画兼報告書 【課名：計画課】

推進責任者（課長）	作成者（推進員）
福澤	横山
令和5年5月12日	令和5年5月10日

環境目的		温暖化防止のため温室効果ガス排出量を削減する															
環境目標		東埼玉資源環境組合地球温暖化対策実行計画の推進。埼玉県地球温暖化対策推進条例への適切な対応															
目標達成の手段 (具体的にどんなことを進めるか)	成果の記録等	担当者	区分	スケジュール（令和4年度(2022年度)）												備考	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
東埼玉資源環境組合地球温暖化対策実行計画における「第3章 具体的な取組」の実施	調査・研究部会やEMS運用状況調査等による実施状況の確認	計画財政担当	計画														→
			実績				9/12	EMS運用状況調査実施									
第三者検証機関による資料等の確認及び検証を実施することで、地球温暖化対策計画・実施状況報告における報告値を精査する	目標設定型排出量取引制度における第三者による検証の実施	計画財政担当	計画														→
			実績	5/31	第三者検証実施												
			計画														
			実績														
			計画														
			実績														
			計画														
			実績														
<進捗チェック> 推進員が四半期末に記入→ 推進責任者(課長)に提出	推進員：進捗状況確認日(日付) ⇒	令和4年8月16日	令和4年11月15日	令和5年2月9日	令和5年5月10日	年間評価											
	進捗状況マーク記入欄 ⇒	◎	◎	◎	◎	◎											
	目標に対する結果(パフォーマンス)進捗状況・実施事項等	第三者検証の準備を進め、5月31日に、「目標設定型排出量取引制度」における基準排出量の第三者検証を実施した。	9月12日に、EMS運用状況調査を実施時に、東埼玉資源環境組合地球温暖化対策実行計画における「第3章 具体的な取組」の実施状況及び設備等の更新状況・予定について確認を行った。「目標設定型排出量取引制度」における第三者検証の結果報告書を県条例の提出書類とともに、7月26日に県へ提出した。	9月12日にEMS運用状況調査した結果を報告した。	「目標設定型排出量取引制度」における「令和4年度分」の第三者検証の日程を調整した。  検証日：令和5年5月30日(予定)	「目標設定型排出量取引制度」における「令和3年度実績」について、第三者検証が無事終了した。											
	推進責任者(課長)：決裁日⇒	令和4年8月18日	令和4年11月21日	令和5年2月10日	令和5年5月12日	令和5年5月12日											

各担当者は、1か月に1回、表の実績欄に予定通り行われた場合は矢印または実績値を入れ、更に進捗状況・実施事項等の欄に下記意味のマークを記入の上コメントを記載する。  
 ◎(100%):うまくいっている ○(100%未満~95%):概ねうまくいっている △(95%未満~90%):ほぼうまくいっている ×(90%未満):うまくいっていない  
 なお、数値目標の設定が困難な場合は、定性的な表現を用いることができる。  
 \*その他実績状況について、進捗状況・実施事項等の欄に記入